

1 ふるさとづくりのテーマ

深山活き生き 行きたくなる郷をめざして

2 地区の将来像

地域住民をはじめ各種団体、企業などの連携の下、新たな視点と実践によって、地域資源の活用や保存によって地域住民がより住みやすく、自信を持って生活できるよう、継続した地域づくりに取り組みます。また、都市住民等に深山でしか味わえないふるさと体感を提供するため、その受け皿づくりに取り組みます。

このことにより、活き生きした深山郷の実現と覗きたくなる・行きたくなる深山を実現していきます。

3 計画期間

平成20年度～平成24年度



4 現状と課題

経営面とともに、冬は積雪期間が長く降雪量も多いことや、大半の耕地が急傾斜地にあり労働条件が悪いことから、離農や転出が進行しています。その影響から、耕作放棄地の増大、農業用水や生活用水源となっている里山の管理放棄、空き家の出現が見受けられ、深山地区の農村景観の維持にも影響が出ています。

室町時代に建立された深山観音堂は、重厚な茅葺き屋根が特徴となっています。これまでは、深山地区で茅を調達してきましたが、茅場も絶え屋根葺き材料の調達を他の地区に依存しなければならない状況になっています。

また、農家の冬期間の副業となっていた深山和紙も、かつて40か所以上もの紙漉き場が存在していましたが、和紙の需要の減少や手間がかかること、経済的な問題から現在ではたった2か所まで激減し、その技法を守る後継者の育成が緊急な課題となっています。

さらに、かつては盛んだった養蚕は、生活様式の変遷と共に衰退し続け、地域に存在していた桑畑は荒廃桑園となっています。農地として再生するにも傾斜地や点在しているため活用できないでいます。

これらの現状を地域全体の課題としてとらえ、地域に存在する資源を組み合わせながら活用していくための行動計画を立て、実践し、実現させていかなければなりません。



5 目標

1

深山和紙を伝承する。

具体的目標

楮畑・ニレ畑を10a整備して原材料を確保。和紙漉き技術習得者の育成10名以上。

2

深山観音堂を保存する。

具体的目標

屋根替え資材の茅場を20a整備。

3

来訪者と交流を図る。

具体的目標

季節毎の体験メニューを企画・実践。

4

深山らしい景観を創出する。

具体的目標

深山地区の統一した「木」や「花」や「色」を決める。地区内の建物の70%以上の屋根色を統一する。

5

地域間交流を図る。

具体的目標

そば打ちを通して、愛媛県内子町石畳地区と交流。10名の「そばの匠」を育成する。